

なく、千古園やセラミックアートセンター、その他の市内の観光資源となりうる各所において、歴史文化を背景とし、その魅力を生かした企画活動に力を入れて行きたいと思っております。その為、より多くの市内外の方々が江別市に魅力を感じ、実際に訪れ楽しむことが出来るよう、各施設の環境整備も整え

られていくことを願っております。

これからも、子どもも大人も楽しめる、文化活動を通して、街づくりへと貢献していく所存です。ご興味のある方はぜひ、野点artの会までご連絡下さいませ。

Instagram: nodate_art_ebetsu
(野点artの会執行部一同)

第70回 江別市民文化祭
市民盆栽展
令和5年11月3日(金)祝〜5日(日)
野幌公民館

市民盆栽展は十一月三日からの三日間、野幌公民館ホールを会場にて開催、多数の来場者で賑わった。展示は十二席、三十六作品でいずれも江別盆栽同好会十二会員のみ出品で、江別市民からの応募がなかったのは残念である。又、作品は晩



秋の展示会にもかかわらず紅(黄)葉や実物がなく彩りに欠けたのはさびしいかぎり原因の一つに異常気候があるのではないだろうか…?



昨秋は季節外れのエゾ山桜の花が咲いたり、今春例年より二週間早く四月半ば桜が咲き、真



夏は三十六度超え(夜は熱帯夜)。九月になっても暑い日が続き下旬になりようやく秋が来た。それにしても暑い夏だった。今年七月の世界平均気温は観測史上最高となり、熱波によるブラジルの大干ばつ、カナダ・ギリシャの山火事、パキスタン・リビア・ケニアの洪水が相次いだ。人間活動の影響で大気・海洋・陸地が温暖化したのが原因と考えられ、日本の今夏の気温も史上最も高く、北海道近海ではイカ・サンマ・サケ等海水温上昇で不漁が続いている。十月にはいり自生地が温暖なうめもどき・姫リンゴ、寒冷地的一位(オンコ)・まゆみ・山もみじ等、実もの・葉ものも秋色に

染まりはじめた。一位の赤い実は一向に増えないので観察していると、小形の留鳥やマガラが盆栽表土苔に一位の実(種)を貯えている。この行動は九月下旬からみられたので調べると径二十五cm平鉢に五〜十ヶ所位貯える貯食行動だった。山のものが不作のため、ヒヨドリ・カケスによりうめもどき・まゆみが全て食べられ、近年なかった事

第70回 江別市民文化祭
市民書道展
令和5年11月3日(金)祝〜5日(日)
野幌公民館大ホール

「江別の未来へひきつぐ文化のバトン 第七十回文化祭」

節目の第70回文化祭「市民書道展」は、野幌公民館大ホールを三コーナーの併設とし、中央に一般応募展の「公民館子供習字」と「アイヌ刺繍」および「鉄道模型」。両端を老舗「盆栽展」および「市民書道展」の開催でしたが、昨年からのこの併設で親子さんが多く見られるようになり、二年連続の四百人超というご来観をいただきました。相乗効果の恩恵と理解していただきます。感謝です。

書道展は、主管団体会員が激

で驚きである。葉もの紅(黄)葉は盆樹が一樣に染まらず、短日で落葉する現象が表われた。植物は季節を勘違いし、動物(けもの)は人里に入り適地に移動する事により食を得、生命を維持するようになった。今、地球上の生物(人間を除く)は、小さな変化にも敏感に反応している。

(江別盆栽同好会 中川 隆)

減という状況で苦慮の中、常連の一般応募の方や文化協会会員の書道愛好家による出品協力もあり、昨年並みの作品を展示で





きました。出品者30名（一般1名・会員10名・主管19名）。作品数は41点（漢字35点・篆刻1点・近代詩文）2点および「かな」3点」という内訳ですが、「かな」の激減は淋しさの限りでした。

出品者の皆さん、ご来観の皆さん、ありがとうございます。出品者皆さんの力作・労作に感

謝です。

ご観覧の皆さんには、ご満足いただけましたでしょうか。今後とも書道文化の活性化にご協力いただき、継承・発展していくことを願うものです。

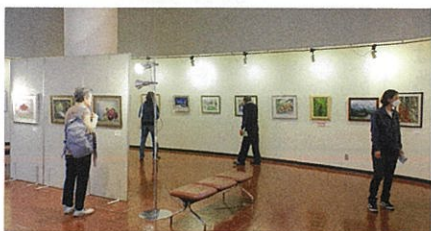
（主管 江別書人集団事務局長 山田 静山）

※誌面の都合上、全作品の掲載ならずご容赦を

第三十七回市民美術展には今年も大勢の市民が腕を振るい、場者も九百二十八人にのぼり、江別の絵画層の厚さを再確認できた展覧会でした。四十九名の出展者数は例年並みで絵描きが減少していると言われる中、皆様に支えられていることに実行委員一同感激しております。

種別では出展者の高齢化によるものか、水彩画の増加に対し、油彩画、特に大作の減少が目立ち寂しさを感じます。水彩は仕上がり早いことと、片付けの簡便さが魅力で、描き込むことで力強さも表現できます。今回、目を引いたのは初めて押し花絵が沢山出展され、どなたも大奮闘で小品奨励賞にも選ばれました。画材は変わっても、どの作品にも作者の美的感性が十分発揮されて

いることが伝わってきます。制作に苦しみながらも楽しんで描いている絵には共感と親しみが



湧いてきます。市民美術展は描くこと、制作することを日々喜び、種別の境界なく観覧者とともに鑑賞できる場です。作者の生活感や思いを描き、版画、切り絵、押し花絵、ちぎり絵他それぞれの表現を出展者全員で楽しみましょう。

■第三十七回展の受賞者

▽江別市民美術展賞（最高賞）西孝明「穴場」水彩50号 ▽江別市文化協会理事賞 石橋昭彦「明鏡止水（青い池）」水彩30号 ▽江別市長賞 飯田優子「北大第二農場」油彩60号 ▽江別市教育委員会教育長賞 高木美子「月」油彩60号 ▽諏訪田賞 内藤久美子「秋の八幡坂」油彩50号 ▽江別美術協会会長賞 竹森登美子「屈斜路湖の朝焼け」油彩80号 ▽奨励賞 秋山憲「少しづつ春。斜里岳」アクリル100号 ▽小品奨励賞 高倉節子「十勝に雪煙たつ」油彩15号 ▽同 遠藤ゆきの「ふれる」油彩6号 ▽同 佐野昭彦「駅馬車」水彩10号 ▽同 小笠原和子「旧町村牧場をモデルに」押し花画10号 ▽同 高柳史郎「港の夕日」油彩8号

（江別市民美術展実行委員長 砂山 信一）